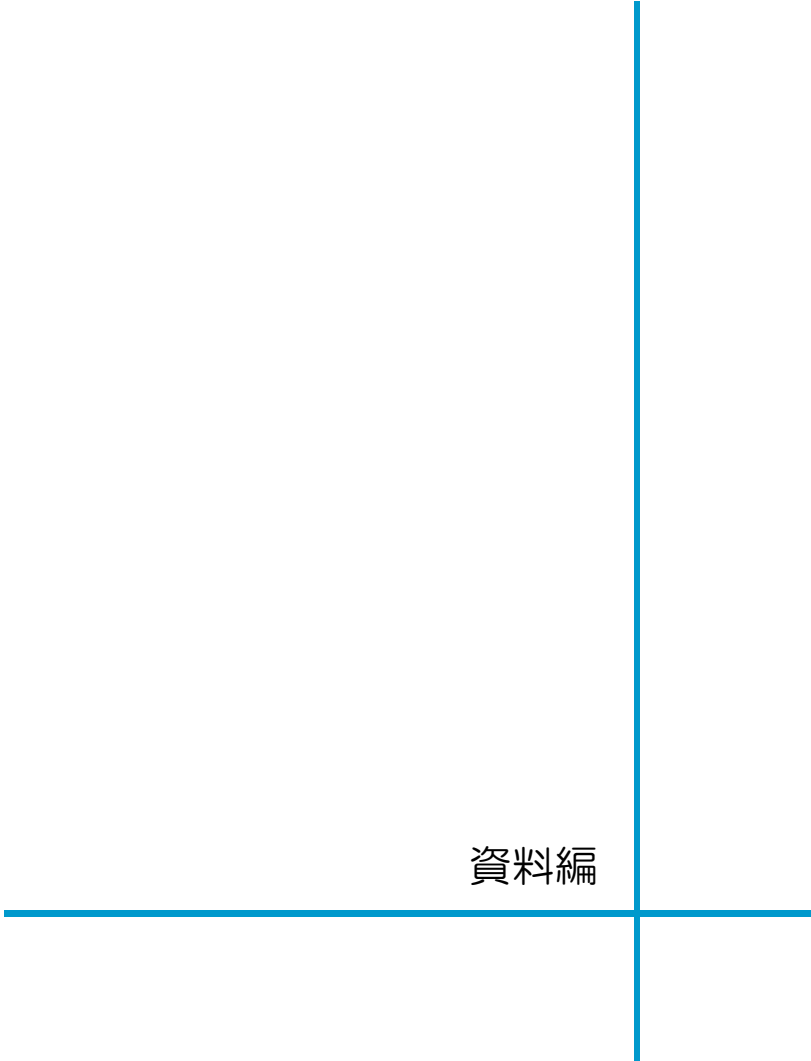
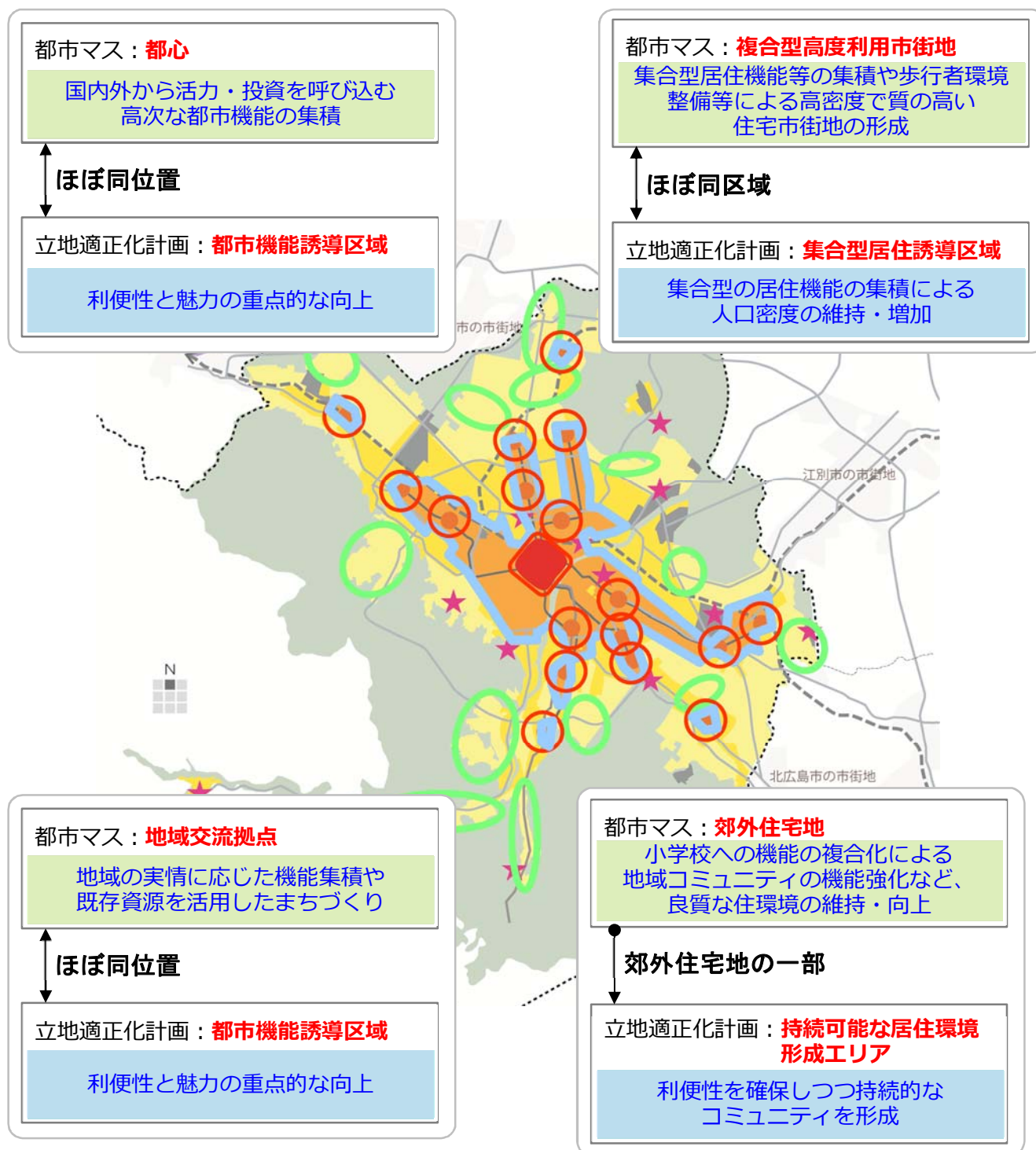




資料編

■第2次札幌市都市計画マスタープランと札幌市立地適正化計画の関係



都市計画マスタープランの市街地区分

- ◆ 都心
- 地域交流拠点
(地下鉄やJRの駅などの周り)
- ★ 高次機能交流拠点
(札幌の産業や観光などの拠点)
- 複合型高度利用市街地
(共同住宅が多く、便利に暮らせる市街地)
- 一般住宅地
(多様な住まい方ができる住宅地)
- 郊外住宅地
(戸建て住宅が多く、良質な環境で暮らせる住宅地)

立地適正化計画の区域区分

- 集合型居住誘導区域
- 都市機能誘導区域
- 持続可能な居住環境
形成エリア

■策定の経緯

年 月	都市計画審議会	都市計画マスタープラン等見直し検討部会
平成 26 年（2014 年）		
5 月	■検討部会設置の決定	【第 2 次札幌市都市計画マスタープランの検討】
6 月	■検討部会委員の承認	□第 1 回 ・前計画の概要 ・札幌市の現況・動向・課題 ・見直しの論点
7 月		□第 2 回 ・見直しの検討項目 ・今後の進め方
10 月		□第 3 回 ・都心、拠点、複合型高度利用市街地について
11 月	■現状報告	□第 4 回 ・郊外住宅地、一般住宅地、市街地の外について
12 月		□第 5 回 ・第 3 回の続き
平成 27 年（2015 年）		
1 月		□第 6 回 ・第 4 回の続き
3 月		□第 7 回 ・中間とりまとめ
5 月		□第 8 回 ・骨子案（1）
6 月	■中間報告	□第 8 回 ・現状分析、居住誘導の考え方
7 月	■骨子案報告	□第 9 回 ・骨子案
9 月	■素案報告（1）	□第 10 回 ・素案（1）
10 月		□第 11 回 ・素案（2）
11 月	■素案報告（2）	
12 月		□第 12 回 ・計画案
平成 28 年（2016 年）		
1 月	■計画案報告	
2 月		□第 13 回 ・最終案
3 月	■最終案報告	□第 13 回 ・最終案

(参考)札幌市都市計画マスタープラン等見直し検討部会 委員名簿

＜五十音順、敬称略、平成28年(2016 年)3月 31 日現在＞

専攻・分野		氏名	職等
都市計画審議会委員	造園	あいこう てつや 愛甲 哲也	北海道大学大学院農学研究院 准教授
	交通計画	たかの しんえい 高野 伸栄	北海道大学大学院工学研究院 教授
	商工業	なかむら たつや 中村 達也	商工会議所 住宅・不動産部会 部会長
	経済	はまだ やすゆき 濱田 康行	公益財団法人はまなす財団 理事長

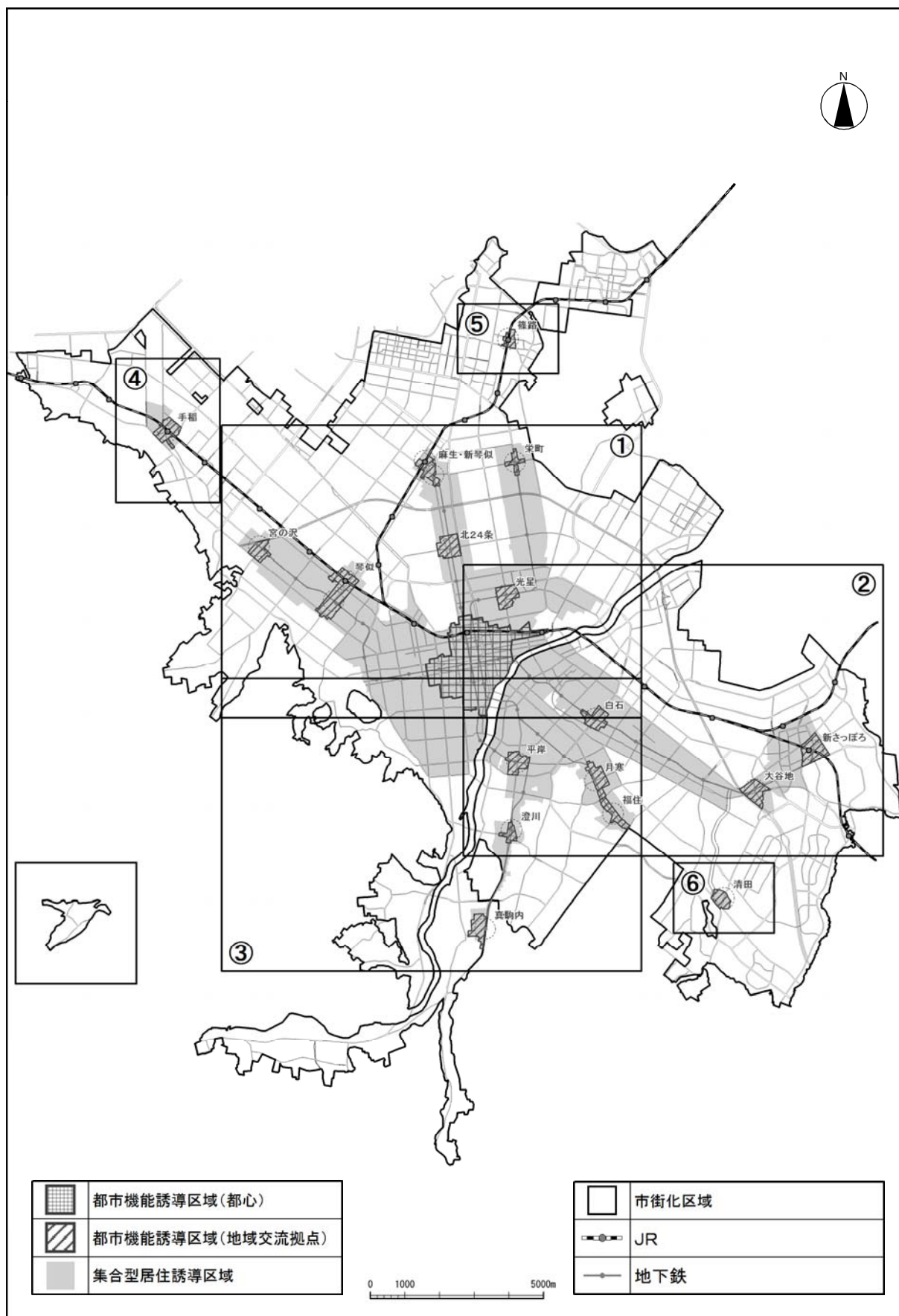
専攻・分野		氏名	職等
専門委員	都市計画	こばやし ひでつぐ 小林 英嗣 (部会長)	北海道大学名誉教授 一般社団法人都市・地域共創研究所 代表理事
	低炭素 都市づくり	むらき みき 村木 美貴	千葉大学大学院工学研究科 建築・都市科学専攻 教授

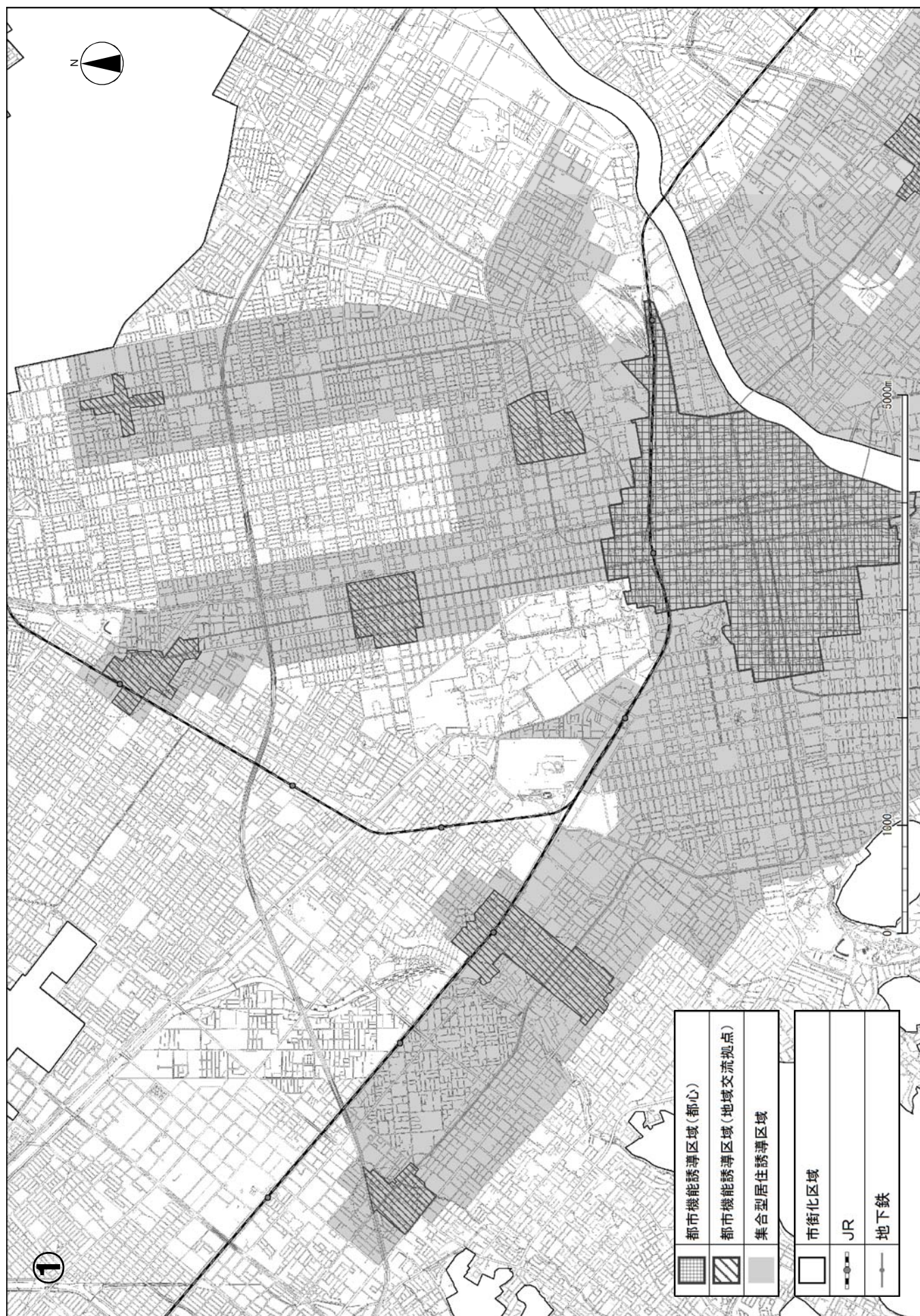
■市民意見の反映に関わる取組

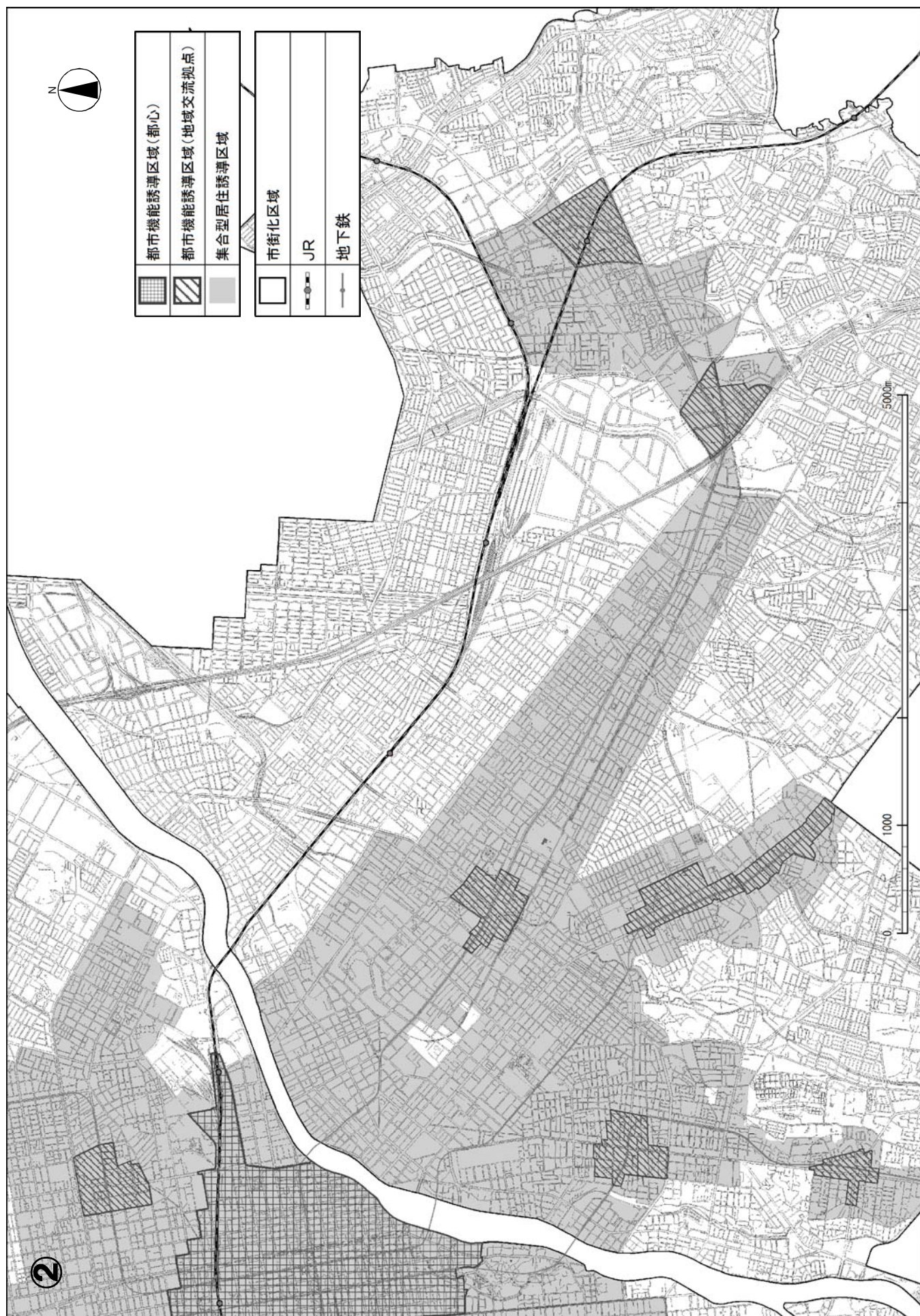
事業	参加者数	概要
市民アンケート（平成 26 年 9 月）	903 名	無作為に抽出した 3,000 名の市民を対象にアンケート調査を実施し、札幌での暮らしに対する評価やこれからのまちづくり、まちづくりの参加意向などについてご意見をいただきました。
まちづくり子どもアンケート （平成 26 年 10 月）	1,363 名	市内の小学 3～6 年生を対象に、住みたい場所や将来の札幌のまちについてご意見をいただきました。
まちづくりワークショップ(第 1 回) （平成 26 年 12 月）	28 名	都心、地下鉄駅周辺、郊外住宅地といった、それぞれ特徴を持った市街地について、魅力的なところ、改善すべきところなどについて話し合いました。
子ども議会（平成 27 年 1 月）	65 名	「誰もが快適に暮らしやすいまちにするためには、どんなところにどんなものがあればいいか考えよう」という共通テーマについて子ども議員で議論し、市長等と今後の都市づくりなどについて意見交換しました。
これからの都市づくりを考える パネル展（平成 27 年 7～8 月）	207 名 (市役所ロビー 見学者)	都市計画マスタープランの骨子案及び立地適正化計画の考え方の内容を、市役所ロビー・区役所等でパネルの展示を行い、来場者からのご意見を募りました。
まちづくりワークショップ(第 2 回) （平成 27 年 8 月）	16 名	都市計画マスタープランの骨子案及び立地適正化計画の考え方についてご意見をいただきました。

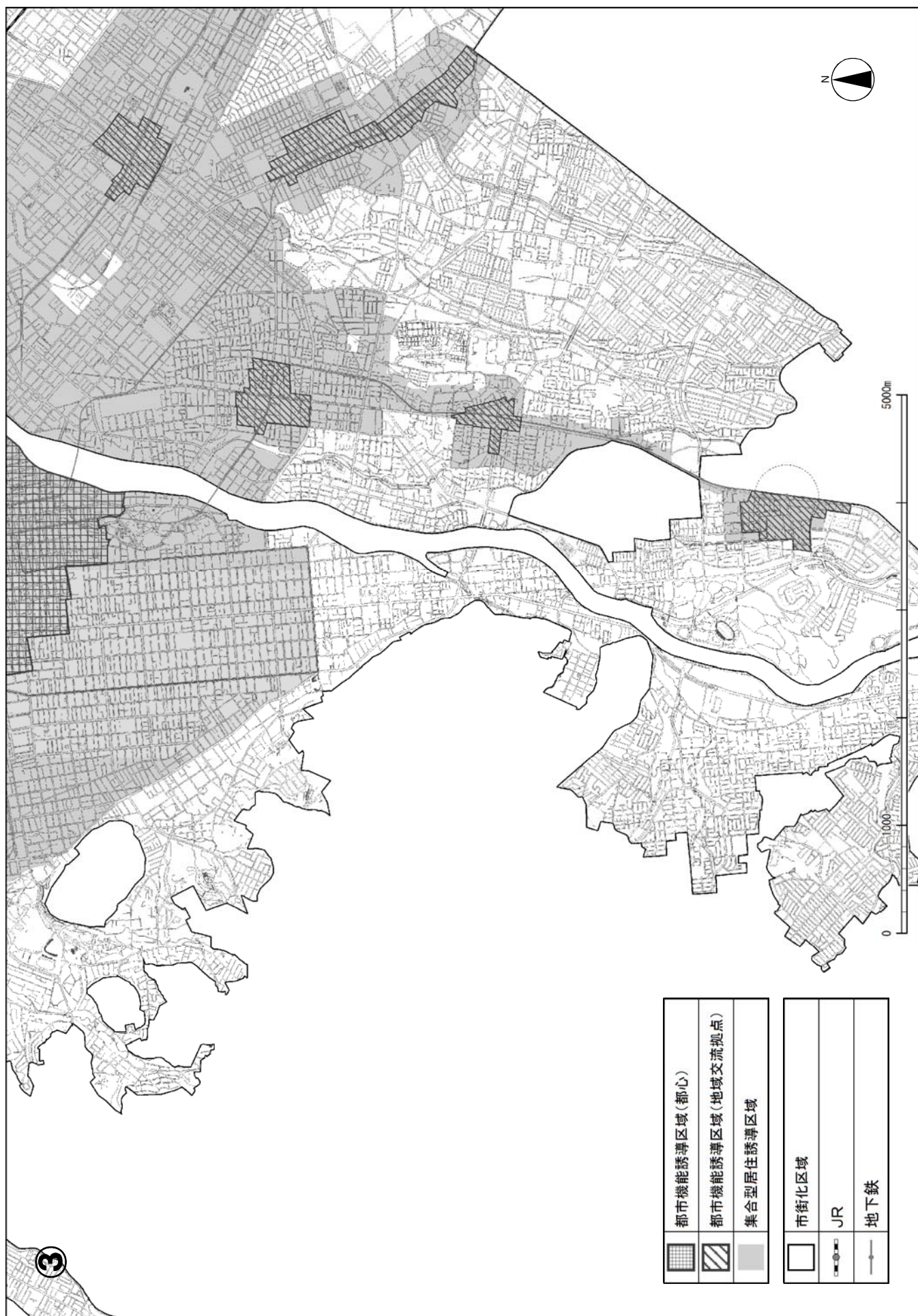
未定稿

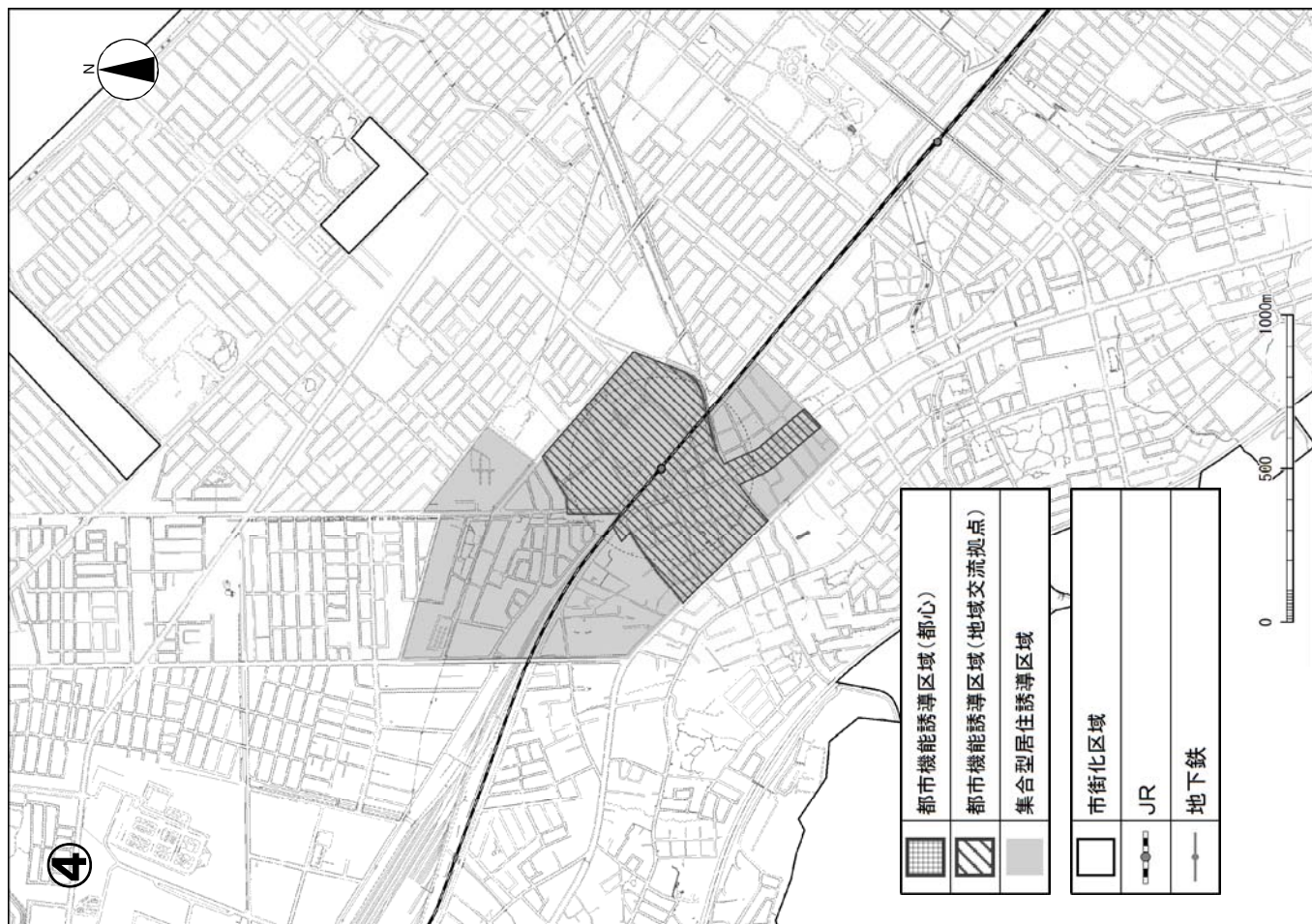
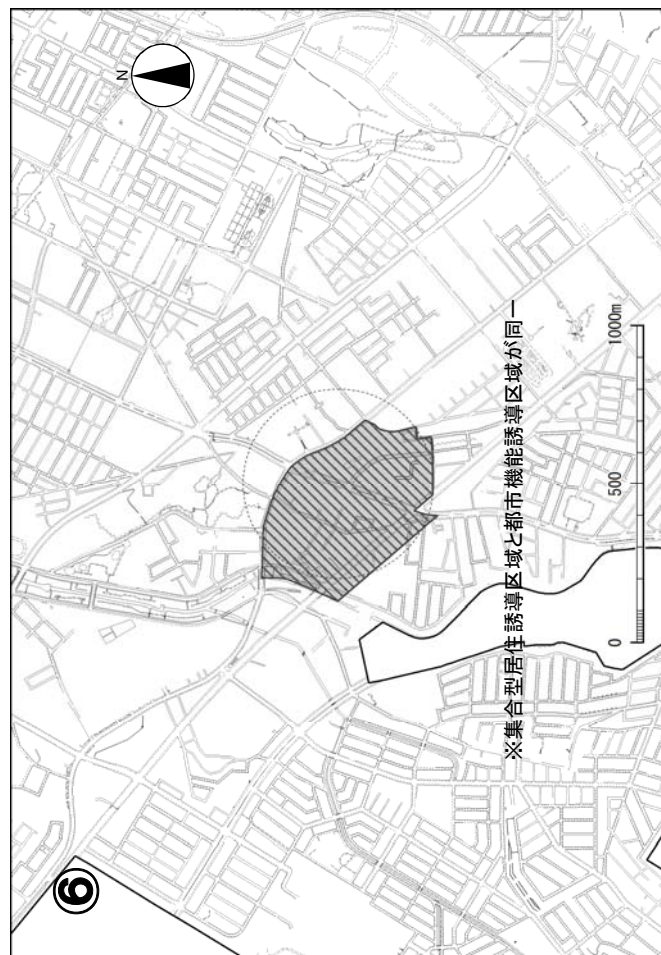
■集合型居住誘導区域・詳細図





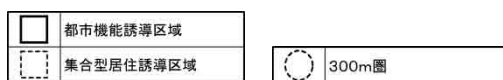
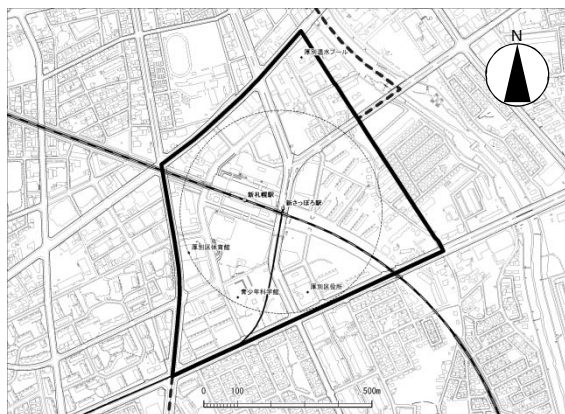




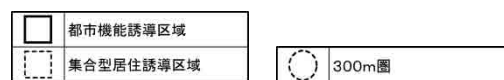
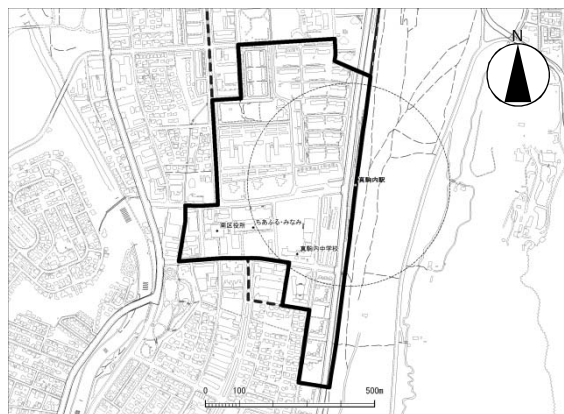


■都市機能誘導区域（地域交流拠点）・詳細図

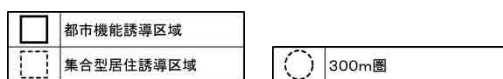
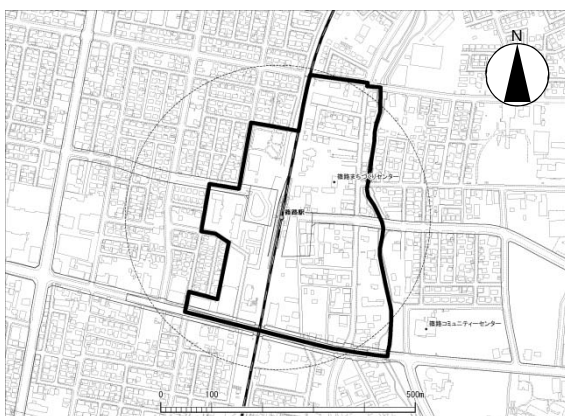
1. 新さっぽろ



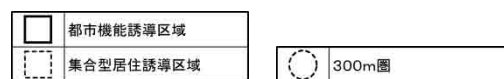
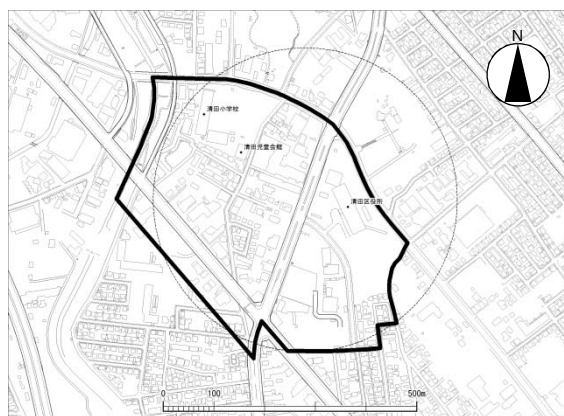
2. 真駒内



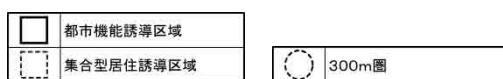
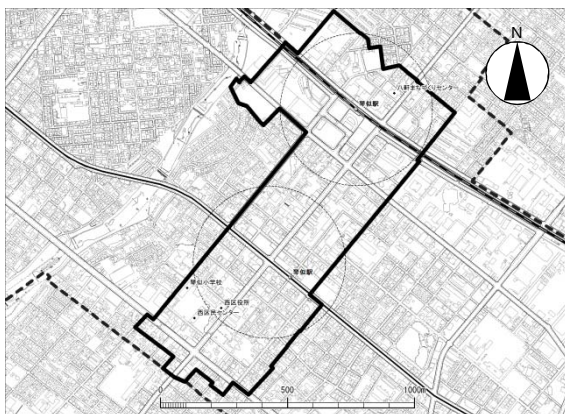
3. 篠路



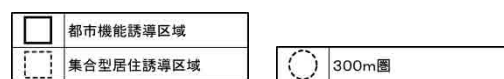
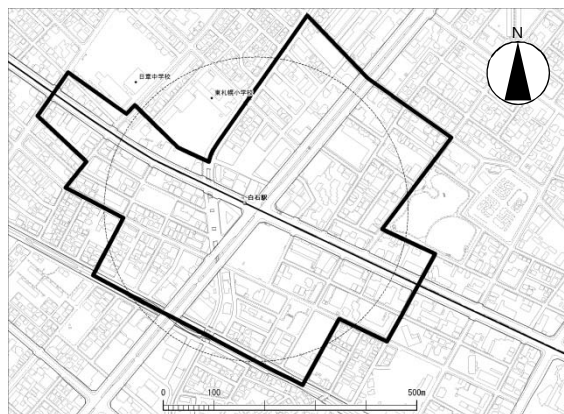
4. 清田



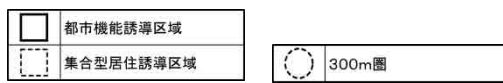
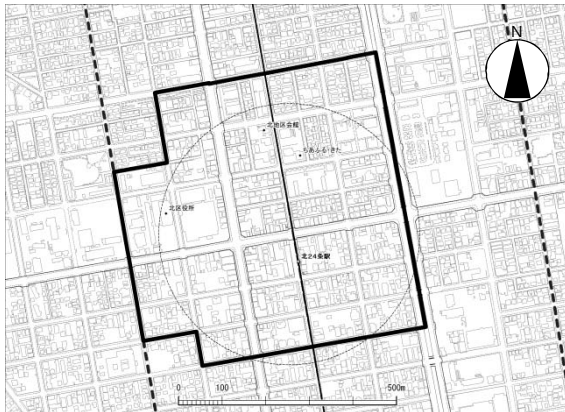
5. 琴似



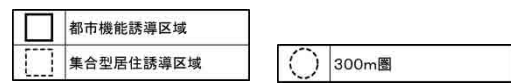
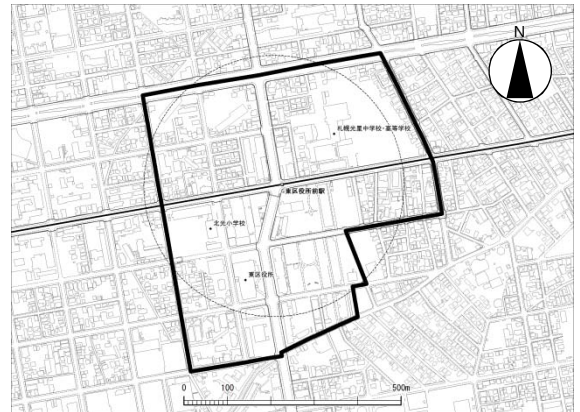
6. 白石



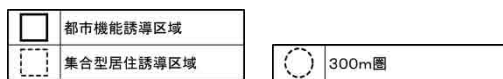
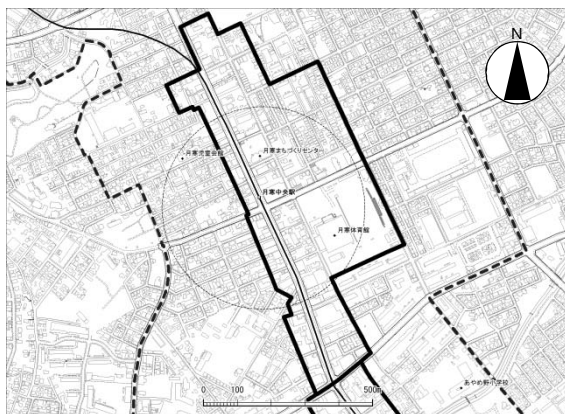
7. 北24条



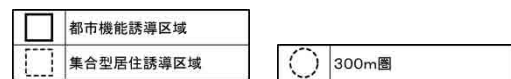
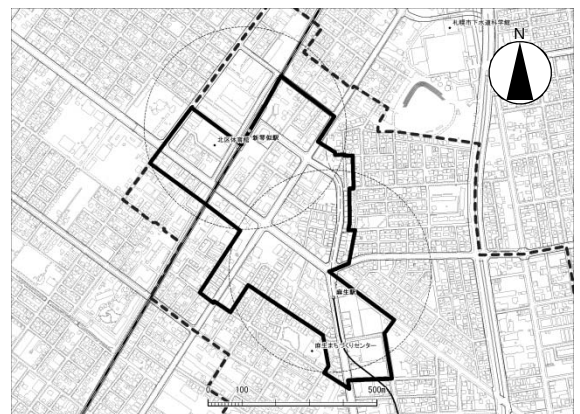
8. 光星



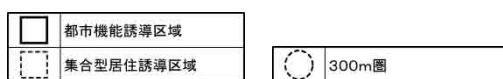
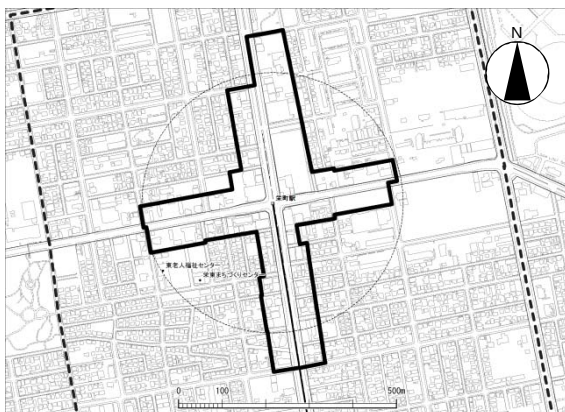
9. 月寒



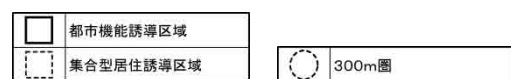
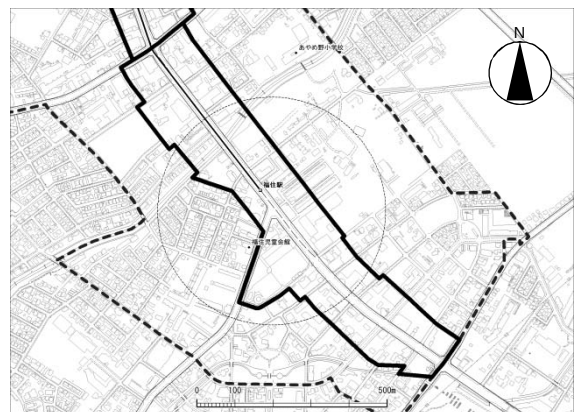
10. 麻生・新琴似



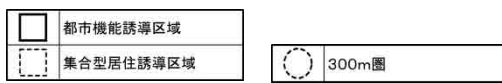
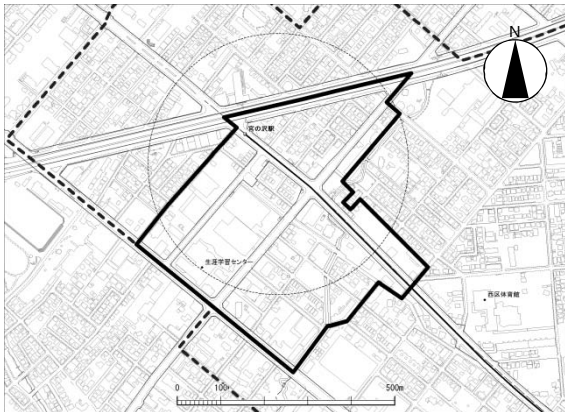
11. 栄町



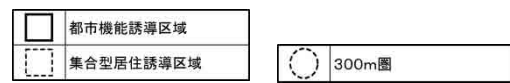
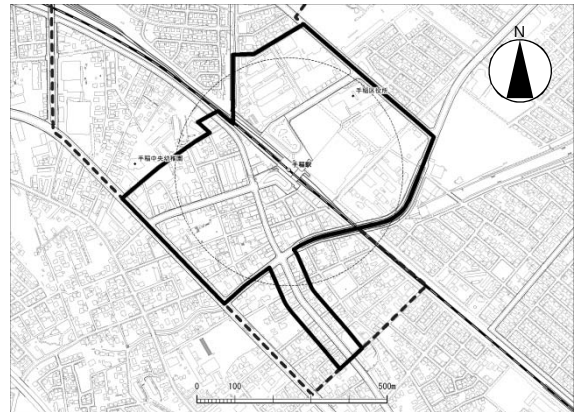
12. 福住



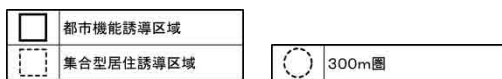
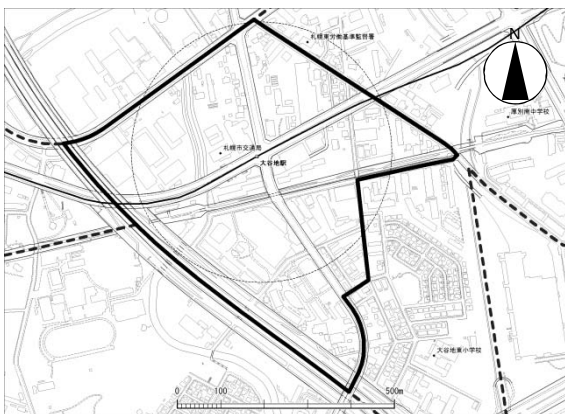
13. 宮の沢



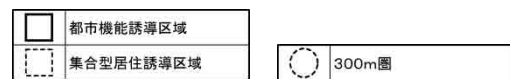
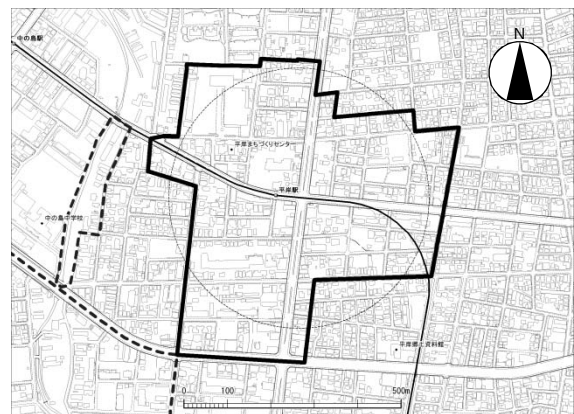
14. 手稲



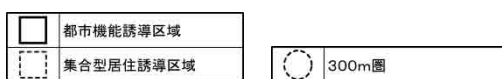
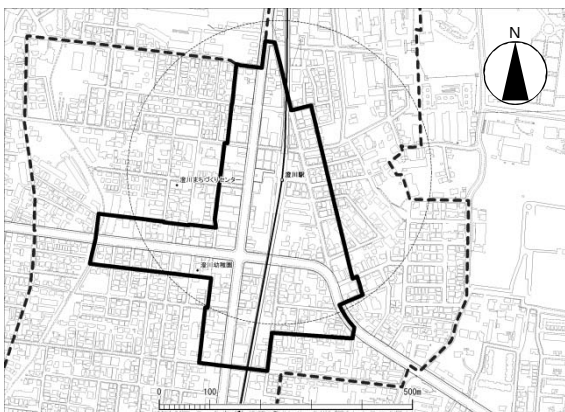
15. 大谷地



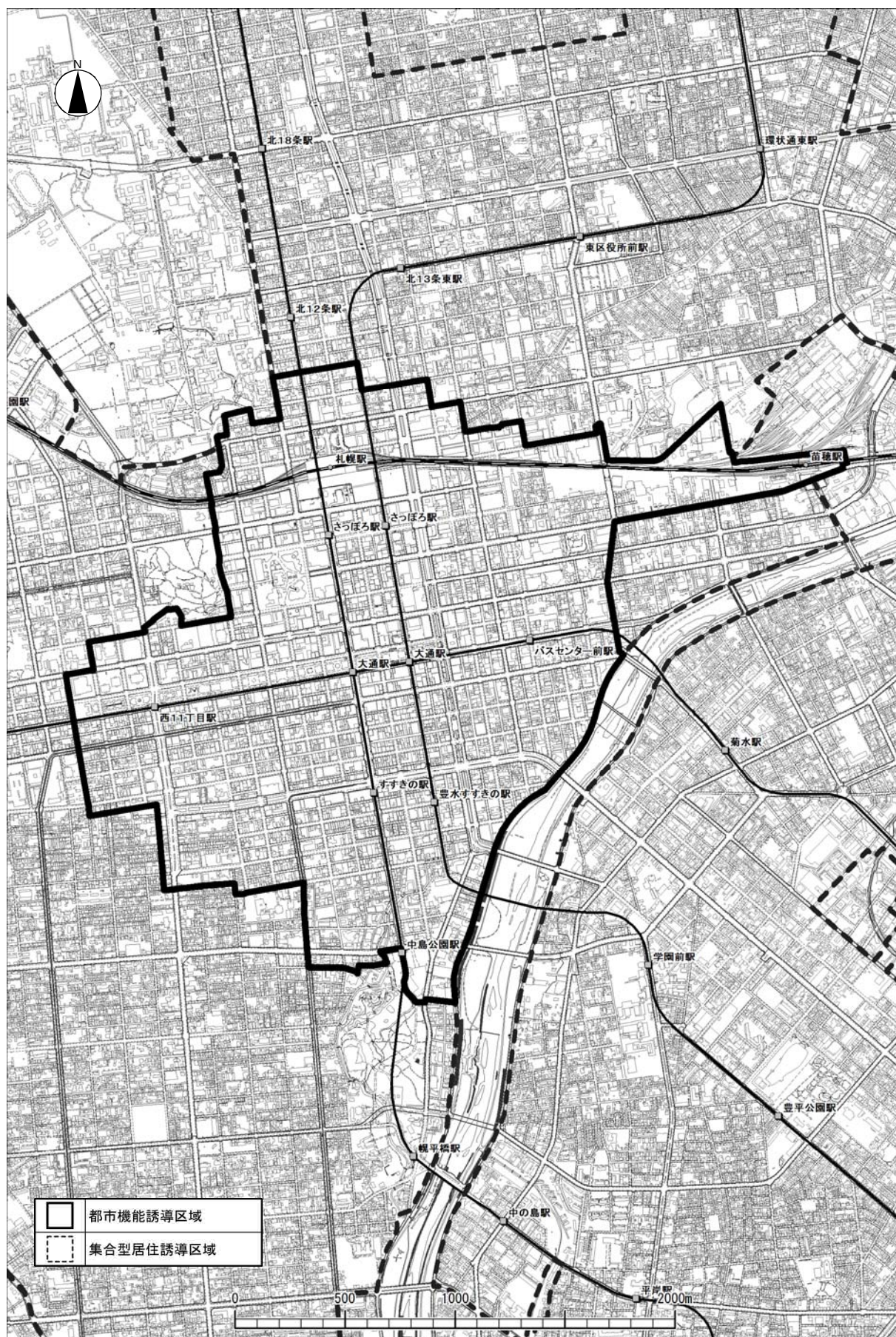
16. 平岸



17. 澄川



■都市機能誘導区域（都心）・詳細図



■人口の動向（過去の傾向）

【転入人口（H12～22）】＜世代別＞

- ・転入人口を世代別に比較すると、生産年齢は他世代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に多く集まっている傾向があり、年少や老年については郊外部の新規開発地などに多く集まっている傾向があります。

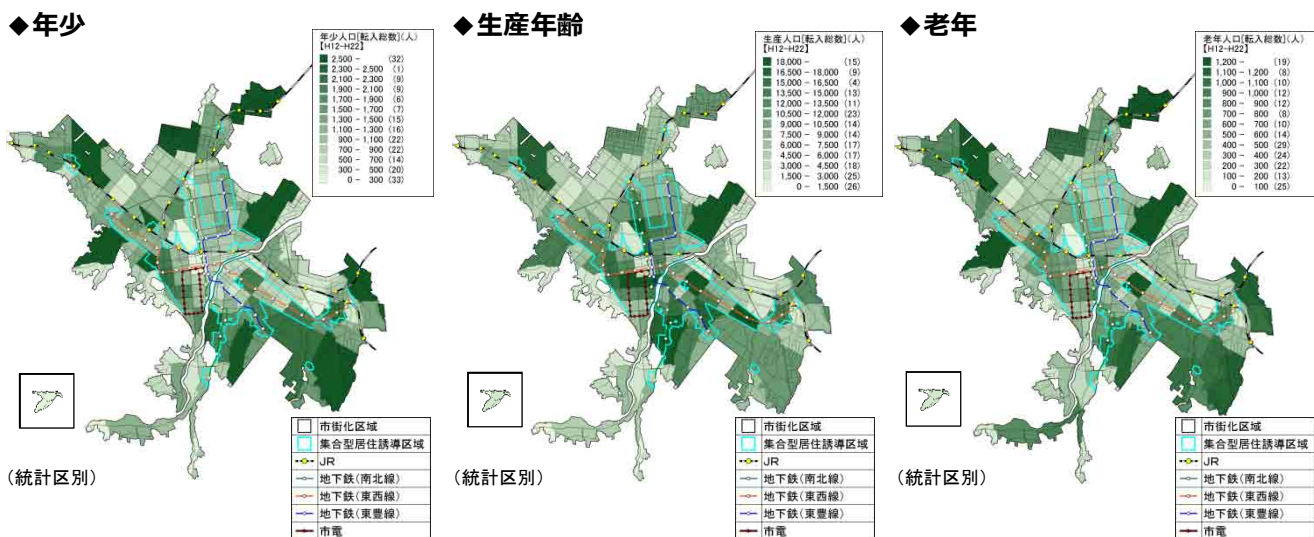


図 世代別の転入人口（H12～22）＜世代別＞

【転入人口（H12～22）】＜世代・転入元別（道外から）＞

- ・道外からの転入人口を世代別に比較すると、年少と生産年齢は同様の傾向がみられます。
- ・老年については、転入数自体が少なくなっています。

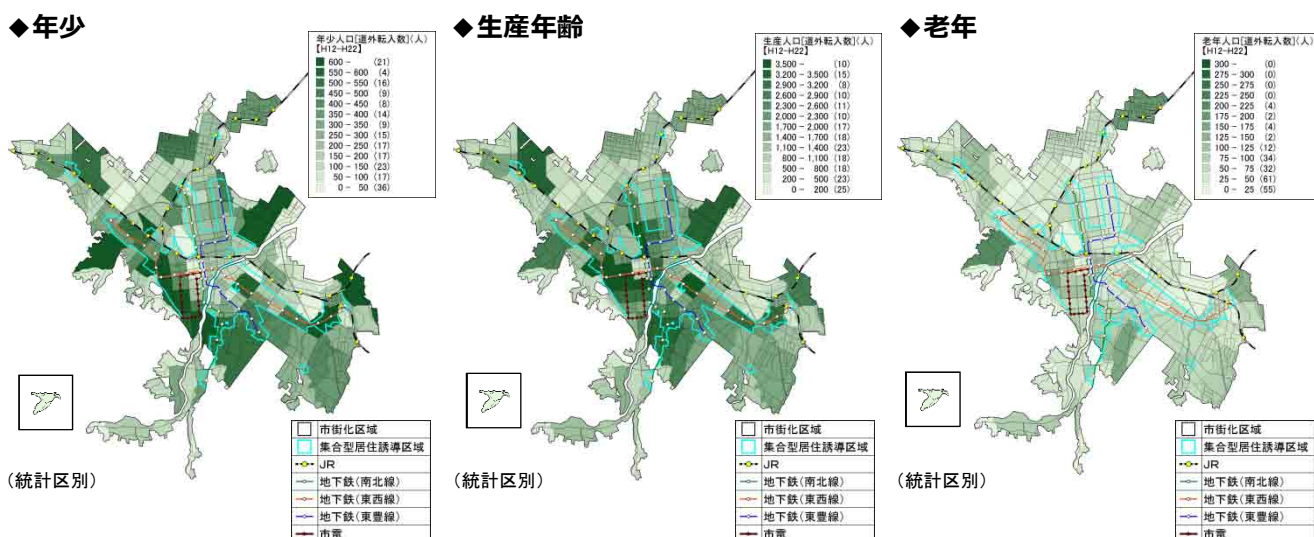


図 世代別の転入人口（H12～22）＜世代・転入元別（道外から）＞

【転入人口（H12～22）】＜世代別・転入元別（道内から）＞

- ・道内からの転入人口については、世代別に傾向が異なります。
- ・生産年齢は他世代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に多く集まっている傾向がありますが、年少や老年は比較的郊外部に分散しています。

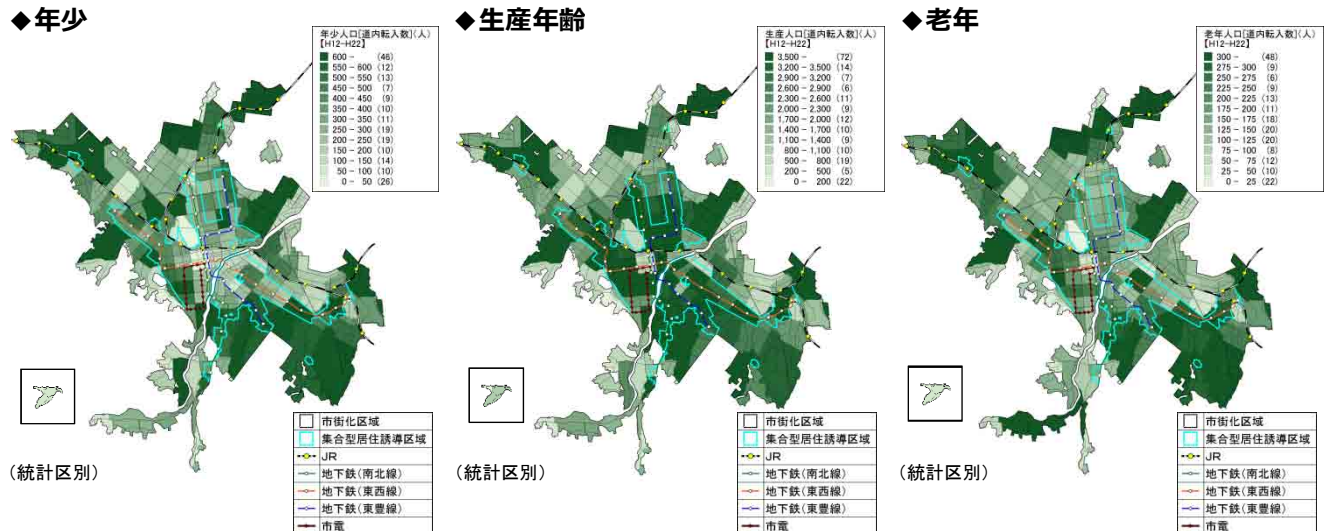


図 世代別の転入人口（H12～22）＜世代別・転入元別（道内から）＞

【転入人口（H12～22）】＜世代・転入元別（市内別区から）＞

- ・市内別区からの転入人口については、世代別に傾向が異なります。
- ・生産年齢は他世代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に比較的多く集まっている傾向があり、年少は郊外部に多く、老年は利便性の高い地域にも郊外部にも多くなっています。

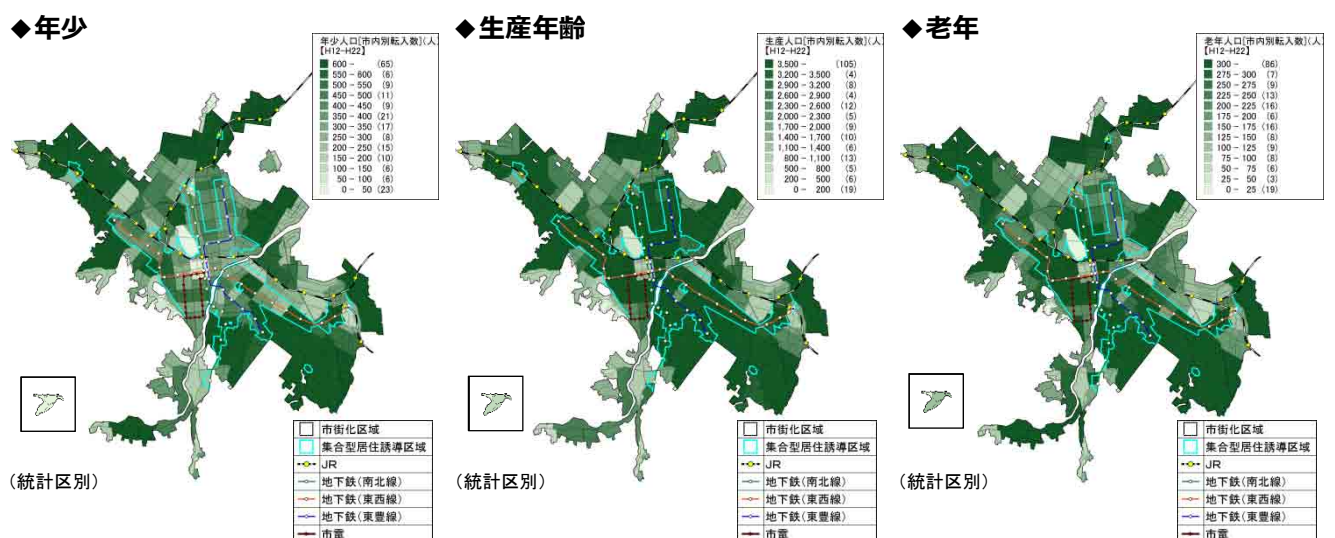


図 世代別の転入人口（H12～22）＜世代別・転入元別（市内別区から）＞

■高齢化率及び後期高齢化率（将来推計）

【高齢化率（H42 年）】

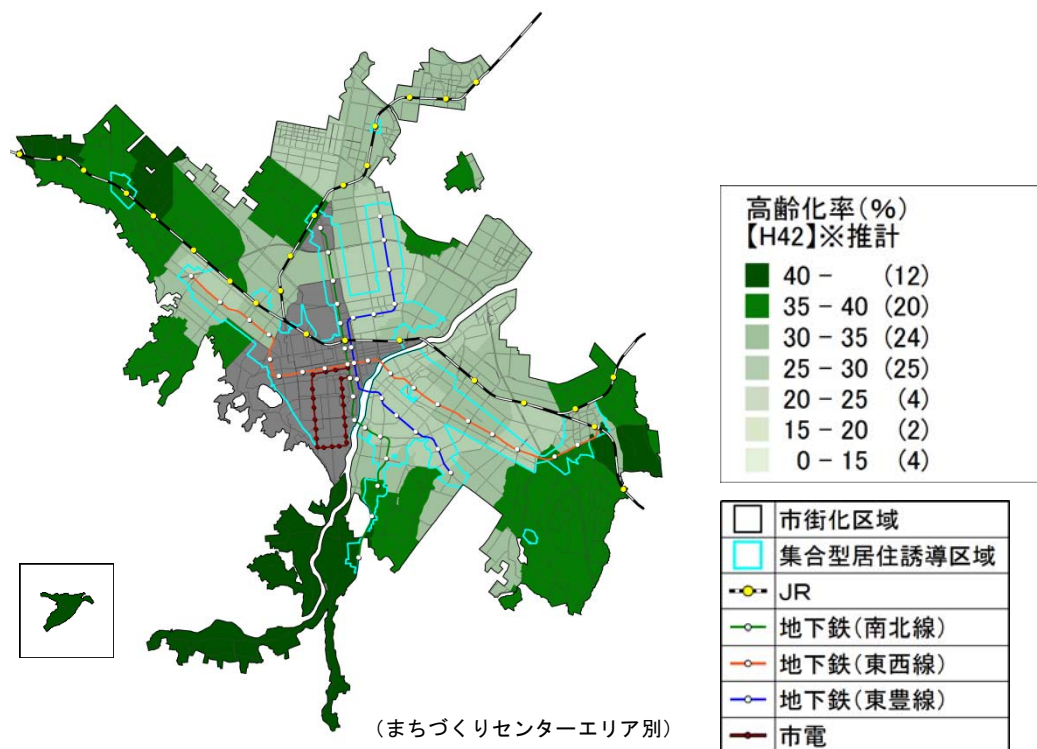


図 高齢化率（H42 年）

【後期高齢化率（H42 年）】

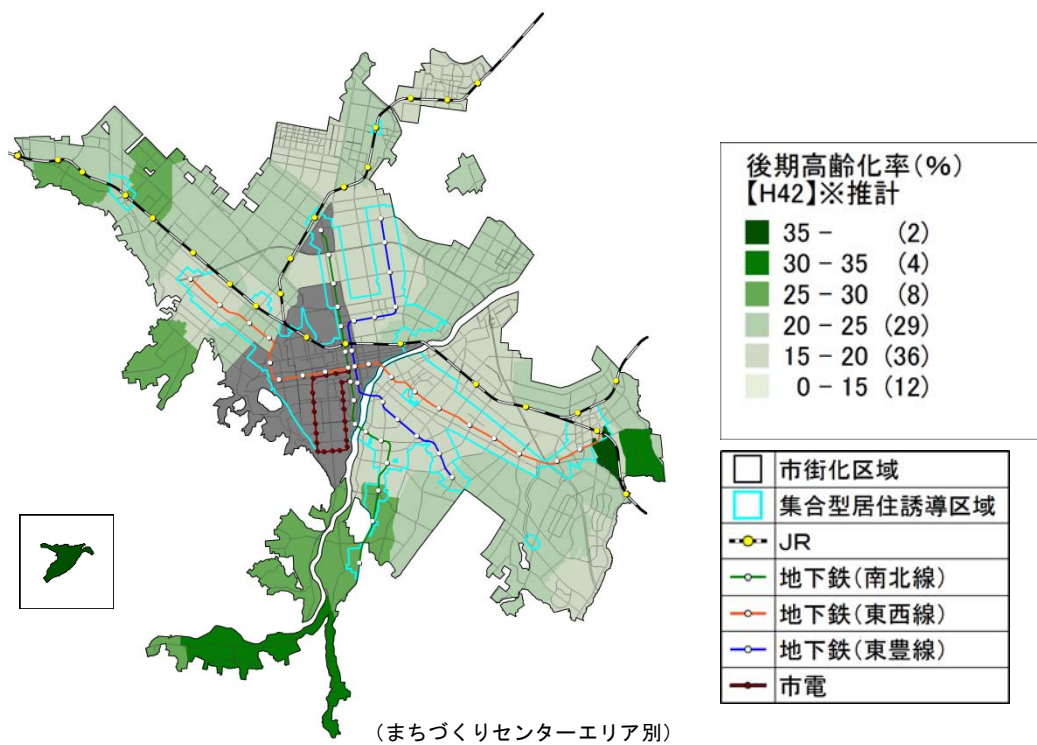


図 後期高齢化率（H42 年）